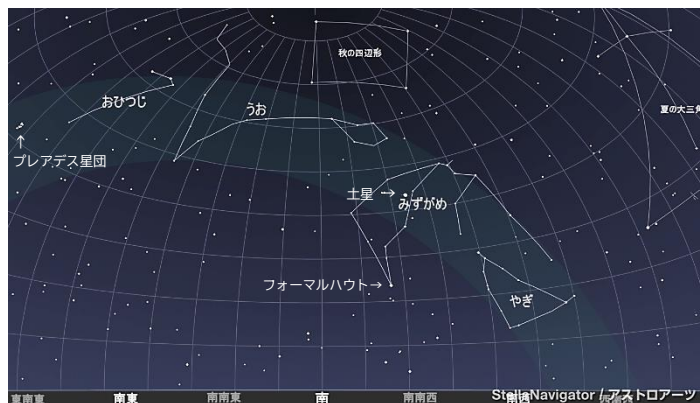


### ★今月の星もよう★

11月中旬の夜8時頃、南の空を見上げると明るく輝く土星が目に入り、その下には秋の空で唯一の1等星フォーマルハウトが見つかります。周りに明るい星がなくポツンと光っていることから「秋のひとつ星」という呼び名がありますが、今年は土星が近くにいるので2つの星が上下に並んでいる様子を見ることができます。フォーマルハウトと土星は同じくらいの明るさですが、やや土星の方が明るいので2つの星を見比べてみるのも良いでしょう。(参考:土星0.9等、フォーマルハウト1.17等)

土星の位置には誕生星座であるみずがめ座が、その西側にはやぎ座、東側にはうお座、おひつじ座が並んでいます。明るい星が少ないので探すのは月明りの無い夜がおすすです。この誕生星座は太陽の通り道「黄道」に沿って並んでいます。



### ★古代エチオピア王家にまつわる星座たち★

11月中旬、天頂付近にはペガサス座の四辺形があり、その周りにはギリシャ神話の古代エチオピア王家にまつわる星座が勢ぞろいしています。北東の方向にはアンドロメダ座、流星群で有名なペルセウス座、北側には「W」の形のカシオペア座、とんがり屋根の形をしたケフェウス座、南東方向には怪物の姿をしたくじら座が輝いています。

ギリシャ神話の物語では、エチオピア王国の王妃カシオペアが、「娘のアンドロメダは海の神に仕える妖精よりも美しい」と自慢したため、それに怒った海の神ポセイドンが、エチオピアの海に怪物くじらを送り津波を起こさせます。困り果てたケフェウス王は、神のお告げに従い、王女アンドロメダを「いけにえ」として海岸の岩に鎖で繋がります。やがて海から怪物くじらが現れアンドロメダが食べられそうになると、その目を見たものを右に変えてしまうという怪物メドゥーサを倒したばかりの勇者ペルセウスが天馬ペガサスに乗って通りかかり、メドゥーサの首を使って怪物くじらを倒します。その後、アンドロメダとペルセウスは結婚し、幸せに暮らしたとされています。ちなみに、地中海のとある海岸には「アンドロメダ ロック」と呼ばれる岩が実際にあるそうです。秋の夜長に、ぜひ神話の星座をたどってみてください。

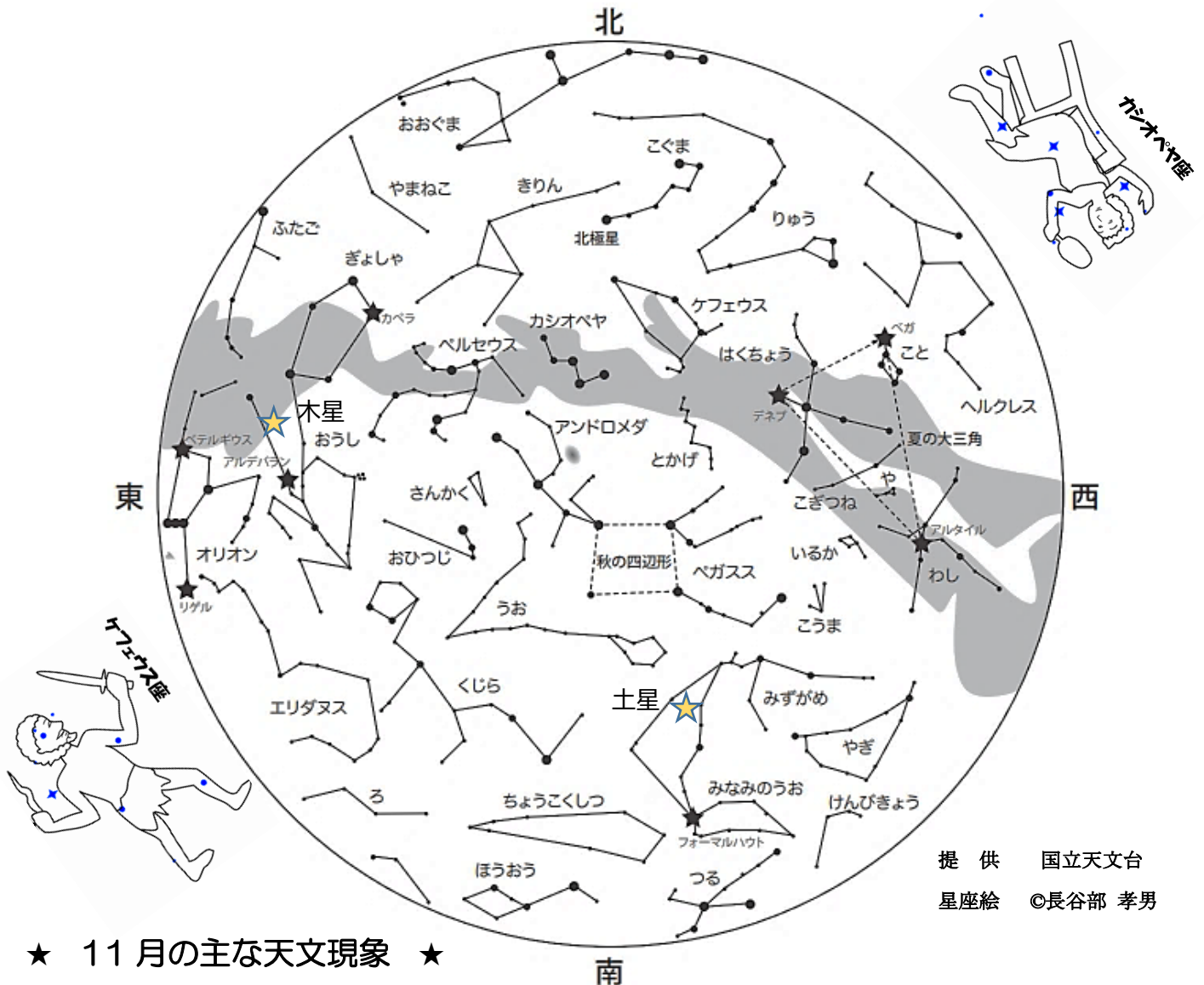


### ★天王星に注目★

11月17日には天王星が衝を迎えます。衝は天体が地球から見て太陽と正反対の位置にある状態で、この時地球との距離が一番近くなり、日没頃上り、深夜に南中し、日の出近くに沈むので、一晩中観察できます。第7惑星である天王星は木星、土星に次いで3番目に大きな惑星ですが、太陽からの平均距離が地球より約20倍も遠くにあるため、見かけの明るさは5.6等ほどしかありません。双眼鏡や望遠鏡が必須ですが、自分で観察が難しい場合は、郊外の天文台や星空観望会で見せてもらうと良いでしょう。天王星は表面の大気に含まれるメタンが太陽の光のうち赤色のみを吸収し他の色の光を反射するため、青色成分が強くなり青みがかかった色に見えます。



# 11月中旬午後8時頃の星空



提供 国立天文台  
星座絵 ©長谷部 孝男

## ★ 11月の主な天文現象 ★

1日(金)	● 新月
5日(火)	おうし座南流星群極大 夕方、細い月と金星が並ぶ
9日(土)	● 上弦
11日(月)	月と土星が接近
12日(火)	おうし座北流星群極大(小規模な出現)
16日(土)	● 満月 ビーバームーン 水星が東方最大離角
17日(日)	しし座流星群極大
20日(水)	深夜から明け方に月と火星が大接近
23日(土)	● 下弦

## 11月は流星を見るチャンス

次第に空気が澄んでくる季節。上旬から中旬にかけて、おうし座南・おうし座北流星群の活動が見られます。はっきりとした極大のない流星群ですが、時折、火球と呼ばれる非常に明るい流星が見られるのが特徴です。17日にはしし座流星群が極大を迎えますが、今年は月明りの影響を受けて観察が難しいかもしれません。流星を探す時は街灯や月などの明かりが直接目に入らない場所で星空を見上げてください。必ずしもおうし座やしし座の方角を見る必要はありません。秋の星座をゆっくりたどっていると、流星が飛び込んでくるかもしれません。